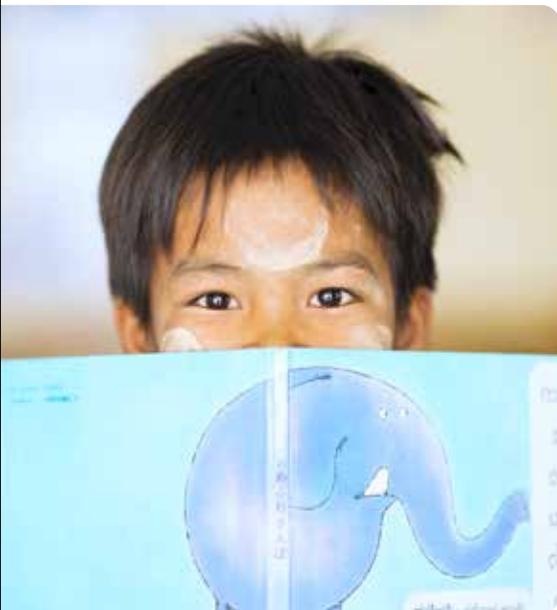




絵本を届ける運動



なぜ絵本を届けるの？

本を知らないということは、つまり教育を受ける機会がないということ。教育を受けることができないと、安定した仕事に就けず、貧困から抜け出すことができません。学校や図書館などが不足している国では、子どもたちが学ぶ機会を持ってないまま、大人になってしまいます。

シャンティは厳しい環境で暮らす子どもたちにも知らない世界を知るドキドキ、時間を忘れて夢中になる楽しさ、たくさんの物語や言葉を知る喜びに出会ってほしいと願い、絵本が不足している地域に日本から絵本を届けています。



危機下におかれている国にも絵本を

2021年、ミャンマーとアフガニスタンでは政変が起こり、一時は図書館活動を含めてすべての活動を中断せざるを得ない状況でした。状況が落ち着いてきたころ、子ども図書館を再開し、図書館活動に関するオンライン研修も少しずつ再開しました。危機下においても絵本は子どもたちの心の支えになっています。



ミャンマーでの図書館活動



アフガニスタン、10月以降に再開した子ども図書館

あなたのつくった 絵本が届くまで

1 翻訳絵本づくり

ご自宅や職場で、絵本に現地語の翻訳シールを貼っていただきました。

2021年1月～10月
のべ14,127人 417企業・団体が参加
(参加費・募金額：43,097,287円)

毎年の申込期限：10月末まで



2 翻訳絵本を海外へ

絵本はシャンティ東京事務所に集められます。梱包した絵本を運び出すのは年1回です。

2022年2月9日
シャンティの職員や関係者
32名が参加



3 海外事務所に到着

日本から船便や航空便で各国・地域のシャンティ事務所に届きます。船便輸送は日本郵船株式会社様にご協力いただいています。

2022年3月～4月ごろ到着予定



4 子どもたちの手元へ

- ・移動図書館
- ・おはなしの読み聞かせ
- ・学校や図書館への配架などの活動を通して、絵本が子どもたちへ届きます。

2022年5月以降



シャンティ国際
ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.



40th
anniversary

本
の
力
を
、
生
き
る
力
に

どんな絵本を届けたの？

シャンティが活動を行う国や地域では、実施している活動内容や子どもたちの年齢、文化的背景などに応じて必要な絵本が異なります。毎年届ける絵本は海外事務所から届くテーマやジャンルのリクエストに基づき、児童書の書店員、図書館員、出版社からおすすめの絵本を教えてください。その後、候補タイトルを活動地に送り、最後は子どもたちと日頃接する現地職員が選ばれます。



2021年度に届けた絵本の一部
(2021年度の実績：50タイトル)



活動地からのさまざまなリクエスト

- 色や形、数字などを学ぶことができる絵本
- 平和について考えることができる絵本
- 動物に関する絵本
- 恐竜や宇宙について学ぶことができる絵本
- 新型コロナウイルス感染拡大を受けて、手洗いの方法を学ぶことができる絵本

といったさまざまなリクエストが活動地から届きますが、すべてに応えることは難しく、日本の多様な絵本の中から選ばなければいけません。ざーざー、ぶくぶく、じゃぶじゃぶなど、オノマトペや日本語独特の言い回しなど、活動地の子どもに伝わりにくい内容は候補から外す場合があります。また、右開きの絵本は活動地では馴染みがないので、左開きの絵本から選ぶことがほとんどです。



シャンティ国際ボランティア会は特定公益増進法人の認定を受けています。「絵本を届ける運動」への参加費はご寄付として、税制上の優遇措置(寄附金控除)が受けられます。領収書が必要な方はご連絡ください。

2022年もよろしくお祈りします

「絵本を届ける運動」は誰もが気軽に参加できる国際協力の方法です。個人でも企業、団体でも取り組むことができます。みなさんがつくった絵本は海を越え、子どもたちの笑顔につながっています。2022年度は16,520冊を目標にしています。ぜひご参加をお待ちしております。

毎年の申込期限 10月末まで

2022年度のお申込みはこちらから

Q シャンティ 絵本を届ける運動



sva.or.jp/ehon



テーマ「科学」

『とりになった きょうりゅうのはなし 改訂版』

大島英太郎 さく、福音館書店

絶滅したと思われる恐竜は、姿を変えて私たちのそばで生きています。それは、なんと鳥なのです。近年、発掘が相次ぐ羽毛恐竜の化石から、恐竜と鳥の謎に迫ります。

大昔にはどんな種類の恐竜がいて、なぜ鳥に進化したのか。リアルな絵とともに恐竜と鳥の関係や生物の進化について学べる科学絵本です。

テーマ「動物」

『どうやってねるのかな』

やぶうち まさゆき 作、福音館書店

動物たちはそれぞれの住み場所や体の機能に合わせて、眠り方にも特徴があります。海に住むラッコや背の高いキリンはどのように寝ているのでしょうか。

「どうやってねるのかな」の言葉に合わせて、ページをめくっていくと、動物たちの知らなかった一面と出会えます。新たな発見に子どもも大人も楽しめる絵本です。

テーマ「知識」

『かぞえてみよう』

さく・さかざきちはる、白泉社

遊びながら、数字や動物を覚えられる絵本です。ペンギン、ウサギ、リス…数えていくと最後にはいろいろな動物が登場し、数もなんと無限大!

2021年度につくられた翻訳絵本は、カンボジアの幼稚園に配布される予定です。シンプルな文章とカラフルな絵で、現地の子どもたちも楽しみながら学べる1冊です。

テーマ「平和・戦争」

『へいわって どんなこと?』

作 浜田桂子、童心社

へいわってどんなこと?「きっとね、へいわってこんなこと。戦争をしない。爆弾なんかおとさない。あさまでぐっすりねむれる…」

日中韓の絵本作家が平和をテーマに1冊ずつ制作するプロジェクトから生まれたいろいろな視点から平和を考える1冊です。ラオスからのリクエストにより選ばれた絵本です。

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

Shanti Volunteer Association (SVA)

〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3F

Tel. 03-6457-4585 (「絵本を届ける運動」直通) / 03-5360-1233 (代表)

Fax. 03-5360-1220 E-mail. ehon@sva.or.jp

「絵本を届ける運動」2021年度 活動報告書 2022年3月1日
後援：文部科学省、公益社団法人 日本図書館協会、公益社団法人 読書推進協議会
助成：公益財団法人 ベルマーク教育助成財団 | 輸送協力：日本郵船株式会社
デザイン：保田 卓也 | 写真協力：川畑 嘉文、安井 浩美 | イラスト：きよはら えみこ
写真中の絵本：『いいことをしたぞう』寺村 輝夫 文 / 村上 勉 絵 (福音館書店) 『ぞうくんのあめふりさんぼ』なかのひろたか 作・絵、『ジोजオのかんむり』岸田 衞 作 / 中谷 千代子 絵、『おおきなかぶ』A・トルストイ 再話 / 内田 莉莎子 訳 / 佐藤 忠良 画、『うずらちゃんのたからもの』きもと もも 作、『そらいろのたね』なかがわりえ 作 / おおむら ゆりこ 絵 (こくま社) 『わたしのワンピース』にしき かや 作、『11びきのねこへんなねこ』馬場 のぼる 作 (ポプラ社) 『けんかのきもち』柴田 愛子 文 / 伊藤 秀男 絵 (評論社) 『オットー 戦争をくったティベア』トミー・ウングレー 作・絵 / 鏡 哲生 訳

受け取った人たちの声

Afghanistan

アフガニスタン アブドゥルさん (図書館に通う子ども)

2年ほど前から図書館に通うようになり、今では毎日絵本を借りて家で読んでいます。図書館にある絵本はどれも絵がきれいで話も面白く大好きですが、特に好きなのは『ジジオジのかんむり』(福音館書店)という絵本です。ライオンが水の中をのぞいている場面を見るととても落ち着きます。今後は平和について、世界の文化・伝統についての絵本も読んでみたいと思います。



Laos

ラオス センサワンさん (シャンティ職員)

絵本は子どもたちが文章や文字の勉強をする手助けとなり、子どもたちの読む力を育てると感じています。家族や友達との関係について、平和、スポーツに関する絵本がもっとあれば良いと思います。子どもたちには良い教育を受け、将来良い仕事に就いてほしいと願っています。



Cambodia

カンボジア プルン・ソンボさん (図書館員)

村の中で若い世代の人たちを支える仕事をしたいと思い、図書館員として働くことを決めました。ここでは国外に働きに出る人たちもたくさんいますが、シャンティの活動を通じて村の中に仕事生まれ、学べる場所ができたことはとても大切なことだと思います。ここに通う子どもたちには、良い教育を受け、私のように国内で仕事を見つけてほしいと思っています。



Myanmar

ミャンマー トウマナ・ティンギさん (図書館に通う子ども)

私は12歳です。両親はタイに出稼ぎに出ているので、祖父母と一緒に暮らしています。週に2回ほど図書館に通い、絵本を読んでいます。最近のお気に入りの絵本は『オットー 戦火をくぐったティンバ』(評論社)です。特にオットーが素晴らしい仕事をした、と評価を受けるところが好きです。また、最後に友達の前で、みんなで一緒に過ごすストーリーがお気に入りです。



届いた絵本は シャンティの教育文化支援活動に 役立てられています

2021年度に「絵本を届ける運動」を通じて届けた絵本の冊数

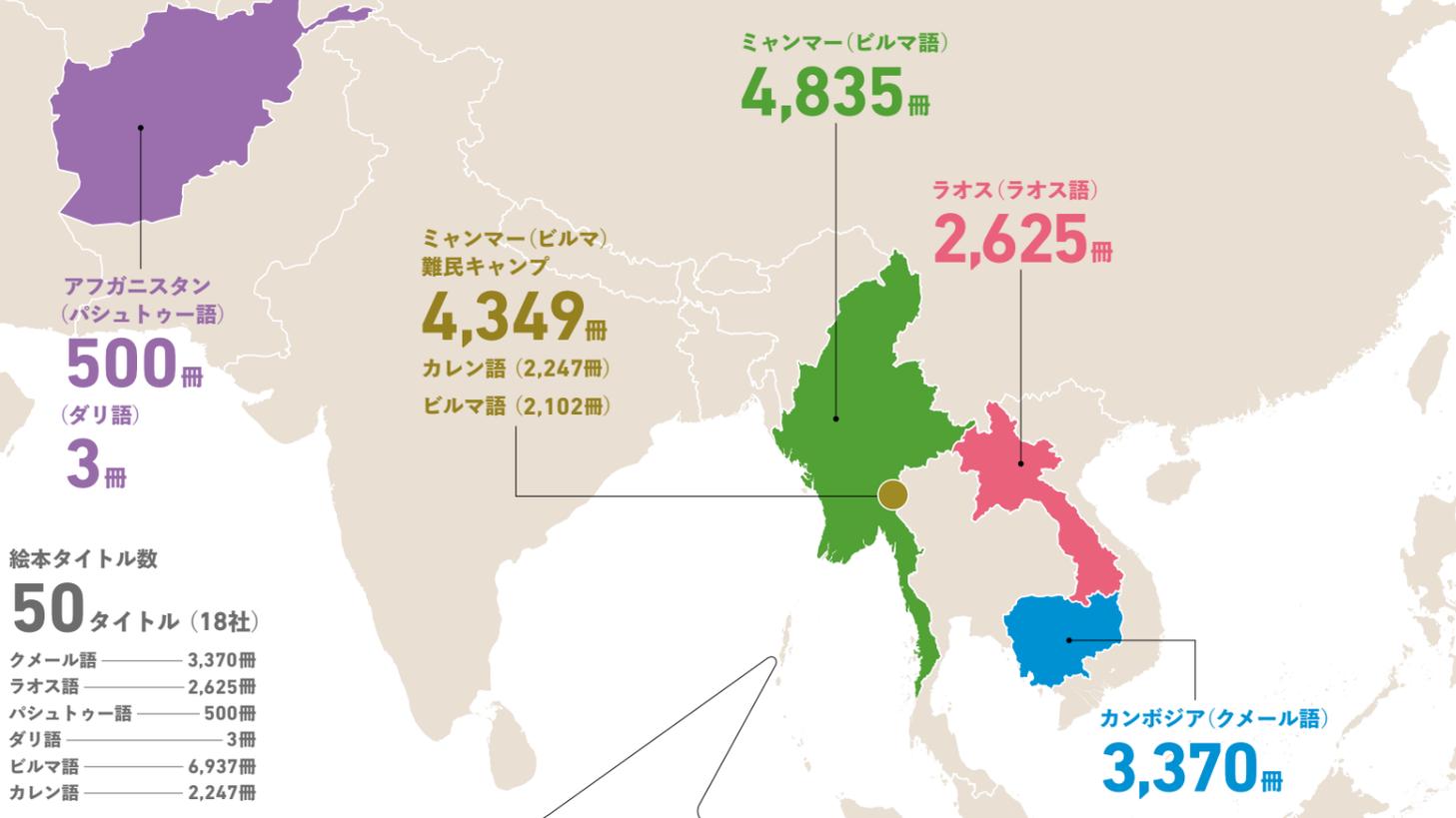
合計冊数 (2021年度末まで)

15,682冊

日本での参加者数

14,127人(のべ)

417企業・団体



絵本タイトル数
50タイトル (18社)

クメール語	3,370冊
ラオス語	2,625冊
パシュトゥー語	500冊
ダリ語	3冊
ビルマ語	6,937冊
カレン語	2,247冊

Japan

2021年度に「絵本を届ける運動」に参加した方々の声

個人での参加

今回、シャンティの活動に少しでも参加させていただきました。中学生の娘と翻訳シールを貼りながらテレビで映るミャンマーのことを話し、少しでもこの絵本から勇気をもらって欲しいと願っています。小さなことの積み重ねですが、1人でも多くの子供たちに学ぶ楽しさを伝えていけたらと思います。

小学校での参加 (6年生、生徒)

改めて絵本はすごいなと思いました。なぜかと言うと、貧しくて教育が受けられず、文字が読めない国でも日本から送られてきた絵本を教材として使ったり、読み聞かせをしたりいろいろなところで絵本を受け取った子どもたちが喜んでくれたり、笑顔になることってすごいなと思ったからです。また、文字が読めなくても絵を見て学ぶのも教育の一つだなと思いました。

企業での参加

ちょうど終戦記念日に絵本づくりに取り組みました。七十数年前の日本、三十数年前のカンボジアの不幸な時代のこと、そして今、現実起こっているミャンマーやアフガニスタンのことなどを思い、普段は何もできない中であって、本当に小さいことですが素敵なストーリーのクメール語の絵本づくりに静かに向き合うことができました。いただいた冊子の表紙に「本の力を、生きる力に。」とあります。この絵本がカンボジアの子どもたちの生きる力になればうれしいなと思いました。貴重な経験をありがとうございました。

Myanmar (Burma) Refugee

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ インさん (シャンティ職員)

絵本は子どもたちを幸せな気持ちにしてくれます。私自身、子どもの時に絵本を読まずに育ってきたので、難民キャンプの子どもたちへは図書館を通じて絵本に触れる機会を与えることができ、とてもうれしく思います。『けんかのきもち』(ポプラ社)という絵本を読んだ時は、私自身の子どものころ友達と喧嘩をした体験を思い出し、とても懐かしく感じました。



シャンティ国際ボランティア会とは

1981年に設立したアジアを中心に活動する、日本生まれのNGOです。子どもたちへの本を通じた教育文化支援、国内外の災害や紛争後の緊急人道支援を行っています。2021年12月10日で設立40周年を迎えました。

絵本を届ける運動のロゴマークを作成しました

絵本がもたらす、芽吹く未来への可能性と、その元となる「種を届ける」=「絵本を届ける」ということを表現しています。綿毛部分は開いた絵本を横から見た形をイメージしています。

絵本を届ける運動

「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けて取り組んでいます

2015年9月に国連で「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。シャンティは「目標4.質の高い教育をみんなに」を実現するため、教育課題の解決に取り組んでいます。また、「SDGs」「国際理解」などをテーマに、絵本をつくりながら行うワークショップを受け付けています。ご希望の方はウェブサイトよりお申込みください。

事業紹介映像「共に生き、共に学ぶ」

翻訳絵本の作り方から活動地に届くまでの過程も含め、シャンティの活動がよくわかる動画を制作しました。ぜひご覧ください。



これまでに届けた絵本

合計 362,717冊

タイトル数: 291タイトル
出版社数: 39社
参加者数: のべ291,624人、企業・団体2,095件

